

東部地区(水産)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
東部-1	出雲の沿岸漁業活性化プロジェクト	(沿岸漁業の複合経営化) 定置網を営む1経営体がH24年度にワカメ養殖を開始している。今年度は、新がんばる事業によりワカメ養殖に必要な種苗生産施設の整備と省力化定置網漁具(箱網)の導入を行った。これらの取組により、複合経営を実践するための生産基盤の強化を図ることができた。	新たに複合経営に取り組む定置網経営体数(経営体)	2	1	50%
		(地域ブランド作り) ①松江イワガキ 松江イワガキは、H25年に引き続き、露店販売を中心に漁業者自ら積極的な販促活動を行い、市内飲食店等の取扱店舗数が増加し、出荷数量が増加するなど、販路拡大が図られた。 ②中海の養殖アサリ 中海の養殖アサリの試験出荷が4～6月に行われ、地元道の駅で合計300kgが販売された。出荷数量は昨年を上回ったが、天候不順による貝の生育不良が発生した。今後は貝の生育状況に応じた出荷時期の見極めが課題である。 ③中海の養殖サルボウ 中海の養殖サルボウの試験出荷が11月～1月に行われ、地元道の駅やスーパーで合計2,700kgが販売された。台風による養殖施設の破損や天候不順による貝の生育不良のため、予定していた出荷量には及ばなかった。	地域ブランド作りへの取組み地区数(地区)	4	5	125%
			加工品の開発数(個)	3	4	133%
東部-2	藻類養殖振興プロジェクト	【フリー配偶体技術の普及状況】 フリー配偶体技術について、ワカメに関しては概ね技術は確立している。特に、技術導入後の経過年数が長い地区では、普及員による指導がなくても、生産者のみで管理が可能など定着してきている。ただし、新規導入者に対しては、技術の安定へ向けて技術支援等の継続が必要である。	種系管理施設数(地区)	9	8	200%
		【フリー配偶体技術の有効活用】 ワカメの新たな養殖方法として鹿島水技Cで開発中である刈網を使用したワカメ養殖(以下、ワカメ網)について、11月に片江地区にて沖出しを行ったところ、良好な生長が確認され、出荷に至った。 ハバリの試験養殖については、波浪対策に重点を置いた施設を設置し、10月中旬に沖出しを行った。施設の破損は見られなかったが、刈網への雑藻の大量付着により、ハバリの生育が悪く、収穫に至らなかった。沖出し時期の再検討が必要である。 【新規着業者支援】 新規着業者はすでに目標数を達成したが、今年度より新たに1名が新規に着業。更なる着業者の増加に向けて、養殖技術の安定化、種系管理施設の集約化、付加価値向上による所得の向上など、新規着業しやすい環境の整備が必要である。	ワカメ養殖業への新規着業者数(人)	5	9	180%
東部-3	出雲の豊かな川・湖づくりプロジェクト	・H26年の神戸川におけるアユの天然遡上は、春先に確認された時点では、近年のなかでは比較的好調であると評価された。しかし、6月のアユ漁解禁後の漁獲状況は過去最低レベルで推移した。漁不振の原因を特定し対策を検討するため、アユの専門家による生息環境に係る調査が実施され、また調査結果に基づくアユの資源回復のための対策が提言された。	(神戸川)遊漁券発行枚数(枚)	450	340	76%
		・神戸川のシジミについては、国土交通省が斐伊川放水路からの流入砂堆積の対策として種々の調査や環境改善事業を計画しており、その推移を見極めたうえでの対策の検討が必要である。	(神戸川)アユ資源回復計画およびシジミ資源管理計画策定数(個)	1	0	0%
		・神西湖のシジミについては、H26年の漁獲量は前年並みで目標値には及ばなかったものの、継続して取組んでいる湖底の覆砂による漁場面積拡大や天然採苗により、資源量増大の兆しが見え始めた。一方で、シジミ消費量の低迷により販売単価が下落傾向にあり、新たな販売対策が必要である。	(神西湖)シジミ漁獲量(トン)	200	174	87%